３年　評価計画

１　太陽とかげを調べよう

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 日なたと日陰の様子に着目して，それらを比較しながら太陽の位置を調べる活動を通して，それらについての理解を図り，観察などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀日陰は太陽の光を遮るとでき，日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることを理解している。  ②太陽と日陰や影の位置の変化について，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 | ➀太陽と日陰や影の位置の変化について，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②太陽と日陰や影の位置の変化について，観察などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀太陽と日陰や影の位置についての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②太陽と日陰や影の位置について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 導入 | ➀ | ？かげふみ遊びをしよう。 | 態➀影の様子に関心をもち，影踏み遊びに進んで取り組もうとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・影の様子に関心をもち，影を踏まれないようにする方法を考えながら，影踏み遊びに進んで取り組もうとしている。 | ・よく晴れた日の午前と午後に，遊ぶ時間を充分とり，影に関心がもてるように支援する。 |
| 思①影踏み遊びをして，影と太陽について問題を見いだし，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・影踏み遊びをして，影のでき方と太陽との関係について問題を見いだし，表現している。 | ・影踏み遊びでは，動く範囲を決め，その中で踏まれないための工夫を考えることで，影のでき方と太陽との関係を意識できるように支援する。 |
| 第１次 | ② | 観１かげをつくってかげのようすを調べよう。  観２かげの向きと太陽のいちを調べよう。 | 知①太陽の光を遮ると影ができることを理解しているかを評価する。  　　　　　　　　【発言分析・記述分析】 | ・影は太陽の光が物に遮られるとできることや，物の影は太陽の反対の向きにできることを理解している。 | ・影はみんな同じ向きを向いていることや，日陰では影ができないことなどに着目して考えられるように支援する。 |
| ③  ④ | 観かんさつそうちを使って，かげの向きと太陽のいちを調べよう。 | 知②方位磁針を正しく扱いながら調べ，分かりやすく記録しているかを評価する。  【行動観察・記録分析】 | ・方位磁針を正しく扱いながら影の向きと太陽の位置を調べ，得られた結果を絵や言葉で分かりやすく記録している。 | ・方位を意識するため，方位磁針の使い方を充分練習し，方位がつかめるように支援する。 |
| 思②影の向きと太陽の位置の変化を調べ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・影の向きが西→北→東と変わることと、太陽が東→南→西へ位置を変えることを関係付けて考え，太陽の位置が変わるので，影の向きは西から東へ変わっていくことを，表現している。 | ・観察カードに太陽の位置を記録し，太陽の位置を意識できるように支援する。 |

２　身近なしぜんのかんさつ

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 身の回りの生物を探す中で，これらの様子や周辺の環境に着目して，それらを比較しながら，生物と環境との関わりを調べる活動を通して，それらについての理解を図り，観察などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や生物を愛護する態度，主体的に問題を解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀生物は，色，形，大きさなど，姿に違いがあること，また，周辺の環境と関わって生きていることを理解している。  ②身の回りの生物と環境との関わりについて，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 | ➀身の回りの生物と環境との関わりについて，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②身の回りの生物と環境との関わりについて，観察などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀身の回りの生物と環境との関わりについての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②身の回りの生物と環境との関わりについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 導入 | ➀ | ？学校のまわりをたんけんして，どのような植物や動物が見られるか，さがしてみよう。 | 態➀身の回りの動植物の様子を進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・学校のまわりの植物や動物に関心をもち，身の回りの動植物の様子を進んで調べようとしている。 | ・学校のまわりの様子を写真で示し，生活科の学習を想起できるように支援する。 |
| 思➀植物や動物の様子について，問題を見いだし，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・植物，動物の姿や動物のいる場所について，問題を見いだし，表現している。 | ・野外で見つけた植物や動物の似ているところや違っているところ，いる場所の違いに着目するように支援する。 |
| 第１次 | ②③ | 観植物の色や形，大きさなどを調べよう。 | 知②虫めがねなどを正しく扱いながら調べ，分かりやすく記録しているかを評価する。  【行動観察・記録分析】 | ・虫めがねなどを正しく扱いながら植物を調べ，植物の色，形，大きさなどを絵や言葉でわかりやすく記録している。 | ・色や形，大きさなどに着目して調べるように支援したり，絵や文で分かりやすく記録できるように支援したりする。 |
| 知➀植物は，色，形，大きさなどの姿が違うことを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・見つけた植物を比較し，植物はそれぞれ色，形，大きさなどの姿に違いがあることを説明できる。 | ・友だちが発表した観察結果と比較して，葉や茎の手触りや花の色の違いに着目するように支援する。 |
| ④ ⑤ | 観動物の色や形，大きさなどを調べよう。 | 知➀動物の色，形，大きさなどは，動物の種類によって違うことを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・見つけた動物を比較し，動物はそれぞれ色，形，大きさなどの姿に違いがあることを説明できる。 | ・友だちが発表した観察結果と比較して，体の色やあしの数などの違いに着目するように支援する。 |
| 第２次 | ⑥ | 観動物のいる場所を調べよう。 | 思②動物のいる場所を調べ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・調べた動物のいた場所を比較して，動物は，食べ物のある場所や身を守れる場所に多くいることを表現している。 | ・どんなところに多くの動物がいたか，見つけた動物のいた場所の共通点や差異点を基に比較して考えるように支援する。 |
| 知➀動物は，まわりの自然と関わり合って生きていることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・動物は，植物を食べたり，身を守れる場所をすみかにしたりして，まわりの自然と関わり合って生きていることを理解している。 | ・動物が花の蜜を吸ったり葉を食べたりしている様子などから，まわりの自然との関わりについて考えられるように支援する。 |

３　植物の育ち方（１）　植物を育てよう

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 身の回りの生物を育てる中で，これらの成長の過程に着目して，それらを比較しながら，植物の成長のきまりを調べる活動を通して，それらについての理解を図り，観察などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や生物を愛護する態度，主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀植物の育ち方には一定の順序があることを理解している。  ②植物の成長のきまりについて，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀植物の成長のきまりについて，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②植物の成長のきまりについて，観察を行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀植物の成長のきまりについての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②植物の成長のきまりついて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 導入 | ➀ | ？ヒマワリとホウセンカのたねのようすを見よう。 | 思➀ヒマワリやホウセンカの種子を調べ，植物の育ち方について問題を見いだし，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・ヒマワリやホウセンカの種の様子を調べ，これから植物がどのように育つのかについて問題を見いだし，表現している。 | ・ヒマワリやホウセンカの花や全体の写真を提示し，植物の育ち方について調べたいことを見つけることができるように支援する。 |
| 第１次 | ②③④ | 観めが出てから，育っていくようすを調べよう。 | 知②紙テープやものさしを正しく扱いながら調べ，わかりやすく記録しているかを評価する。  【行動観察・記録分析】 | ・紙テープやものさしを正しく扱いながらヒマワリやホウセンカの草丈を測り，葉の様子や草丈などを絵や言葉，数値に表し，わかりやすく記録している。 | ・ヒマワリやホウセンカの葉の形や大きさ，草丈などに着目して記録するように支援する。 |
| 知➀植物は，一定の順序で育っていくことを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・これまでのヒマワリやホウセンカの観察から，植物は種から芽を出し，子葉が出て葉がしげっていくことを説明できる。 | ・ヒマワリやホウセンカの育ち方の様子の差異点や共通点に着目して，植物の育ち方について考えるように支援する。 |

４　日なたと日かげをくらべよう

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 日なたと日陰の様子に着目して，それらを比較しながら地面の様子を調べる活動を通して，それらについての理解を図り，観察などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀地面は太陽によって暖められ，日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを理解している。  ②太陽と地面の様子との関係について，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀太陽と地面の様子との関係について，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②太陽と地面の様子との関係について，観察などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀太陽と地面の様子との関係についての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②太陽と地面の様子との関係について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 第１次 | ➀ | 観日なたと日かげの土をさわってちがいを調べよう。 | 態➀日なたの地面と日陰の地面の様子の違いを進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・日なたと日陰の様子に関心をもち，日なたの地面と日陰の地面の明るさや，暖かさ，湿り気などの違いを進んで調べようとしている。 | ・日なたや日陰で遊んだことなどを想起させ，地面の暖かさや湿り気の違いに関心がもてるように支援する。 |
| ②  ③ | 観温度計を使って，地面の温度を調べよう。 | 知②温度計を正しく扱いながら調べ，わかりやすく記録しているかを評価する。  【行動観察・記録分析】 | ・温度計を正しく扱いながら地面の温度を測り，得られた結果を絵や言葉でわかりやすく記録している。 | ・温度計を正しく使えるように練習させ，目盛りの読み方や扱い方に慣れることができるように支援する。 |
| 知➀日なたと日陰の地面の温度には違いがあることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・日なたと日陰の地面の温度を比べ，日なたの地面は日陰の地面より温度が高くなっていることを説明できる。 | ・温度の違いを棒グラフなどで視覚的に捉えられるように支援する。 |
| ④  ⑤ | 観朝と昼の日なたの地面の温度を調べよう。 | 思②朝と昼の日なたの地面の温度を調べ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・太陽が地面を照らしている時間と朝と昼の日なたの地面の温度とを関係付けて考え，地面は太陽の光によって暖められることを，表現している。 | ・太陽の光が当たっていると物が暖かくなることを想起させたり，日なたに出て体が温まることを体感させたりし，地面も太陽の光で暖められることがわかるように支援する。 |

５　こん虫の育ち方（１）　チョウを育てよう

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 身の回りの生物を探したり育てたりする中で，これらの様子や成長の過程に着目して，それらを比較しながら，昆虫の成長のきまりを調べる活動を通して，それらについての理解を図り，観察などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や生物を愛護する態度，主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀昆虫の育ち方には一定の順序があることを理解している。  ②昆虫の成長のきまりについて，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀昆虫の成長のきまりについて，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②昆虫の成長のきまりについて，観察などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀昆虫の成長のきまりについての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②昆虫の成長のきまりについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 導入 | ➀ ② | ？モンシロチョウをかんさつしよう。 | 思➀モンシロチョウを観察して，モンシロチョウの育ち方について問題を見いだし，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・モンシロチョウやその卵と幼虫を観察して，モンシロチョウの育ち方について問題を見いだし，表現している。 | ・チョウはどんな場所で見たことがあるかを想起させ，卵や幼虫，蛹を探して，卵から変化し成長していく様子について問題を見いだすことができるように支援する。 |
| 第１次 | ③ | 観１たまごのようすを調べよう。 | 知②虫めがねなどを正しく扱いながら調べ，分かりやすく記録しているかを評価する。  【行動観察・記録分析】 | ・虫めがねなどを正しく扱いながらモンシロチョウの卵の様子を調べ，色や形，大きさなどを絵や言葉でわかりやすく記録している。 | ・虫めがねや携帯型の顕微鏡等の正しい使用方法を確認して，卵や幼虫の色や形，大きさなどの特徴を，観察できるように支援する。 |
| ④  ⑤ | 観２よう虫からチョウになるまでを調べよう。 | 態➀幼虫が成虫になるまでの様子を進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・記録分析】 | ・モンシロチョウの育ち方に興味・関心をもち，幼虫が蛹になり，羽化して成虫になるまでの体の色や形，大きさなどを進んで調べようとしている。 | ・モンシロチョウの幼虫の様子を毎日観察し，変化が見られたときに，その様子を記録するように支援する。 |
| 知➀モンシロチョウは，卵→幼虫→蛹→成虫という一定の順序で成長することを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・モンシロチョウの育ち方の観察から，卵→幼虫→蛹→成虫の順序で成長することを説明できる。 | ・モンシロチョウの観察カードを，卵，幼虫，蛹，成虫の順に並べて，モンシロチョウの育ち方の順序を捉えることができるように支援する。 |
| 第２次 | ⑥ ⑦ | 観バッタのよう虫からせい虫になるまでを調べよう。 | 思②バッタの育つ様子を観察し，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・バッタとチョウの育つ過程を比較して，バッタは蛹にならずに成虫になることを，表現している。 | ・バッタとチョウの観察カードを育ち方の順に並べて比較させ，バッタとチョウの育ち方との違いに気付くことができるように支援する。 |
| 知➀バッタは，卵→幼虫→成虫という一定の順序で成長することを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・バッタの育ち方の観察から，卵→幼虫→成虫という順序で成長することを説明できる。 | ・バッタの観察カードを育ち方の順に並べて，バッタの育ち方の順序を捉えることができるように支援する。 |

６　植物の育ち方（２）　植物のからだを調べよう

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 身の回りの生物を育てる中で，これらの様子や体のつくりに着目して，それらを比較しながら，植物の体のつくりを調べる活動を通して，それらについての理解を図り，観察などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や生物を愛護する態度，主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀植物の体は根，茎及び葉からできていることを理解している。  ②植物の体のつくりについて，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀植物の体のつくりについて，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②植物の体のつくりについて，観察などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀植物の体のつくりについての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②植物の体のつくりについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 第１次 | ➀ | 観ヒマワリとホウセンカのようすを調べよう。 | 態➀このごろのヒマワリとホウセンカの様子を進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・ヒマワリとホウセンカの成長の様子に関心をもち，どのように育っているか，葉や茎，花の様子を進んで調べようとしている。 | ・ヒマワリとホウセンカのつぼみや花の形，大きさ，草丈の伸びに着目させ，以前と比較しながら観察するように支援する。 |
| 第２次 | ②③ | 観ヒマワリとホウセンカの体のつくりを調べよう。 | 思②ヒマワリとホウセンカの体のつくりを調べ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・ヒマワリとホウセンカの体のつくりを比較して，その形や大きさには違いはあるが，体のつくりは根，茎，葉からできていることを，表現している。 | ・ヒマワリとホウセンカを並べて比較しながら観察し，共通点は何かを考えられるように支援する。 |
| 知➀植物の体は根，茎，葉からできていることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・ヒマワリとホウセンカの観察から，植物の体は根，茎，葉からできていることを説明できる。 | ・ヒマワリとホウセンカの模型や写真などを提示したり，他の植物の体のつくりと比べさせたりして確認できるように支援する。 |

７　こん虫の育ち方（２）　こん虫のからだを調べよう

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 身の回りの生物を探したり育てたりする中で，これらの様子や体のつくりに着目して，それらを比較しながら，昆虫の体のつくりを調べる活動を通して，それらについての理解を図り，観察などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や生物を愛護する態度，主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀成虫の体は頭，胸及び腹からできていることを理解している。  ②昆虫の体のつくりについて，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀昆虫の体のつくりについて，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②昆虫の体のつくりについて，観察などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀昆虫の体のつくりについての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②昆虫の体のつくりについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 第１次 | ➀②  ③ ④ | 観１トンボのからだのつくりを調べよう。  観２トンボのからだのつくりとアリやチョウのからだのつくりをくらべよう。 | 態➀トンボの体のつくりを進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・昆虫の体のつくりに興味をもち，トンボの体のつくりや体の部分の名前を進んで調べようとしている。 | ・トンボを観察し，体の部分に自分なりの名前を付けるように支援する。 |
| 思②トンボの体のつくりとアリやチョウの体のつくりを調べ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・トンボの体のつくりとアリやチョウの体のつくりを比較して，どちらにも頭・胸・腹があることや，あしが6本あり，腹にはいくつもの節があることを，表現している。 | ・観察カードにアリ，チョウ，トンボの３種類を対比して書き表し，似ているところに気付くことができるように支援する。 |
| 知➀トンボの体は頭・胸・腹の３つの部分からできていることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・トンボの体のつくりを観察し，体は頭・胸・腹の３つの部分に分かれていることやあし・はね・目・触角・口があることを説明できる。 | ・トンボの体を絵や図に表し，友の書いたものと見比べながら，頭・胸・腹を確認できるように支援する。 |
| 知➀昆虫の体のつくりについて理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・トンボやアリ，チョウの体のつくりを調べ，昆虫の体は，頭・胸・腹の３つに分かれていて，胸に６本のあしがあることを説明できる。 | ・これまでの観察結果を確認させて，昆虫の体のつくりについて説明できるように支援する。 |

８　植物の育ち方（３）　花がさいた後の植物を調べよう

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 身の回りの生物について，育てる中で，これらの様子や成長の過程に着目して，それらを比較しながら，植物の成長のきまりを調べる活動を通して，それらについての理解を図り，観察などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や生物を愛護する態度，主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀植物の育ち方には一定の順序があることを理解している。  ②植物の成長のきまりについて，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀植物の成長のきまりについて，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②植物の成長のきまりについて，観察などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀植物の成長のきまりについての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②植物の成長のきまりについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 第１次 | ➀ ② | 観花がさいた後の，ヒマワリとホウセンカのようすを調べよう。 | 態➀このごろのヒマワリやホウセンカの様子を進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・ヒマワリやホウセンカの成長の様子に関心をもち，花が咲いた後の様子を進んで調べようとしている。 | ・ヒマワリやホウセンカの花が咲いた後の様子や，茎の長さ，葉の大きさ，色などに着目させ以前と比較して観察するように支援する。 |
| 第２次 | ③ ④ | ●植物が育ってきたようすをまとめよう。 | 思②ヒマワリとホウセンカの成長の様子をまとめ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・ヒマワリとホウセンカの成長の順序を比較し，植物は種から芽を出し，葉をしげらせ，花が咲いた後には実をつけ，枯れていくということを，表現している。 | ・ヒマワリやホウセンカそれぞれの，成長過程の写真を比較し，育ち方の共通点に気付くことができるように支援する。 |
| 知➀植物の育ち方には，共通する一定の順序があることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・これまでのヒマワリやホウセンカの観察から，植物の成長には種から芽を出し，葉をしげらせ，花を咲かせた後には実をつけ，枯れていくという一定の順序があることを説明できる。 | ・今までの観察カードや写真を並べ，成長の順序を確認できるように支援する。 |

９　風やゴムの力のはたらき

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 風とゴムの力と物の動く様子に着目して，それらを比較しながら，風とゴムの力の働きを調べる活動を通して，それらについての理解を図り，実験などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀風の力は，物を動かすことができること，また，風の力の大きさを変えると，物が動く様子も変わることを理解している。  ②ゴムの力は，物を動かすことができること，また，ゴムの力の大きさを変えると，物が動く様子も変わることを理解している。  ③風とゴムの力の働きについて，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀風とゴムの力の働きについて，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②風とゴムの力の働きについて，実験などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀風とゴムの力の働きについての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②風とゴムの力の働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 第１次 | ➀② | ？風の力で動く車を作って，走らせてみよう。 | 態➀風の力で動く車を作り，風の力の働きを進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・風の力で動く車を作り，帆に当てる風の強さを変えて，風の力の働きを進んで調べようとしている。 | ・風の力で動くおもちゃで遊んだ経験などを話し合わせ，風の力の働きについて調べることへの興味・関心をもたせるように支援する。 |
| 思➀風の力で動く車を走らせて，風の力の働きについて問題を見いだし，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・風の力で動く車を走らせて，風の強さと車の動く距離の関係について問題を見いだし，表現している。 | ・帆に当てる風の強さと車の動く距離の関係に着目させ，問題を見いだすことができるように支援する。 |
| ③ | 実ほに当てる風の強さをかえて，車の動くきょりを調べよう。 | 思②帆に当てる風の強さを変えて，車の動く距離を調べ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・風が強いときと弱いときの車の動いた距離を比較し，風が強いときの方が，車に働く力が大きくなり遠くまで動くことを，表現している。 | ・風が強いときと弱いときの車の動いた距離を比較させ，風の強さと車の動いた距離の関係に目を向けられるように支援する。 |
| 知➀帆に当てる風が強いほど，物を動かす働きが大きくなることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・風が強いときの方が車の動いた距離が長くなることから，帆に当てる風が強いほど，車に働く力が大きくなることを説明できる。 | ・風を手に当て，受ける力を体感させたり，車を手で押させたりして，風の力と手で押す力が同じであることに気付かせるように支援する。 |
| 第２次 | ④ | ？ゴムの力で動く車を作って，走らせてみよう。 | 態➀ゴムの力で動く車を作り，ゴムの力の働きを進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・ゴムの力で動く車を作り，ゴムの伸びを変えて，ゴムの力の働きを進んで調べようとしている。 | ・ゴムの力で動くおもちゃで遊んだ経験などを話し合わせ，ゴムの力の働きについて調べることへの興味・関心をもたせるように支援する。 |
| 思➀ゴムの力で動く車を走らせて，ゴムの力の働きについて問題を見いだし，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・ゴムの力で動く車を走らせて，ゴムの伸びと車の動く距離の関係について問題を見いだし，表現している。 | ・ゴムの伸びと車の動く距離の関係に着目させ，問題を見いだすことができるように支援する。 |
| ⑤ | 実ゴムののびをかえて，車の動くきょりを調べよう。 | 思②ゴムの伸びを変えて，車の動く距離を調べ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・ゴムの伸びが長いときと短いときの車の動いた距離を比較し，ゴムの伸びが長いときの方が，車に働く力が大きくなり遠くまで動くことを，表現している。 | ・ゴムの伸びが長いときと短いときの車の動いた距離を比較させ，ゴムの伸びと車の動いた距離の関係に目を向けられるように支援する。 |
| 知➀ゴムの伸びが長くなるほど，物を動かす働きが大きくなることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・ゴムの伸びが長いときの方が動いた距離が長くなることから，ゴムの伸びが長いほど，車に働く力が大きくなることを説明できる。 | ・ゴムを伸ばし，手が受ける力を体感させたり，車を手で押させたりして，伸ばしたゴムの力と手で押す力が同じであることに気付かせるように支援する。 |
| ⑥ | 実ゴムを２本重ねて，車の動くきょりを調べよう。 | 知➀ゴムの本数を増やすほど，物を動かす働きが大きくなることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・２本のゴムのときの方が動いた距離が長くなることから，ゴムの数を増やすほど，ゴムの元に戻ろうとする働きが大きくなることを説明できる。 | ・手で２本のゴムを伸ばしたときの方が，力が強いことを体感させ，ゴムの本数を増やすと動かす働きが大きくなることを確認できるように支援する。 |

１０　光のせいしつ

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 光を当てたときの明るさや暖かさに着目して，光の強さを変えたときの現象の違いを比較しながら，光の性質について調べる活動を通して，それらについての理解を図り，実験などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀日光は直進し，集めたり反射させたりできることを理解している。  ②物に日光を当てると，物の明るさや暖かさが変わることを理解している。  ③光の性質について，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀光の性質について，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②光の性質について，実験などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀光の性質についての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②光の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 導入 | ➀  ② | ？日光をかがみではね返してみよう。 | 態➀鏡で日光を反射させて，光の性質を進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・日光を鏡に当てて反射させて，的当てや光を重ねたり，影絵遊びをしたりして，光の性質を進んで調べようとしている。 | ・教科書の写真を見せたり，鏡で日光を反射させた経験などを想起させたりして，光の進み方や光が当たったところの明るさや暖かさに興味・関心をもたせるように支援する。 |
| 思➀鏡で日光をはね返し，光の性質について問題を見いだし，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・鏡で日光をはね返したり，影絵遊びをしたりして，光の進み方や光が当たったところの明るさや暖かさについて問題を見いだし，表現している。 | ・鏡の向きをいろいろ変えて，鏡の向きと反射した光が当たるところの関係や，影絵遊びなどで反射した光が手に当たったときの暖かさに気付くことができるように支援する。 |
| 第１次 | ③ | 実かがみで日光を反しゃさせて，光の進み方を調べよう。 | 知➀日光を反射させた光は，直進することを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・鏡で日光を反射させた光が，地面に真っすぐな光の軌跡をつくることから，日光を反射させた光は直進することを説明できる。 | ・反射させた光の軌跡を日陰の地面や床につくり，線を引かせたり軌跡をたどらせたりして，反射させた光が直進することを確認できるように支援する。 |
| 第２次 | ④  ⑤ | 実１かがみで反しゃさせた光が当たったところの，明るさやあたたかさを調べよう。  実２かがみの数をふやして，光が重なったところの明るさやあたたかさを調べよう。 | 思②光を当てたところの明るさや暖かさを調べ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・１枚の鏡で日光を反射させて当てた手と，光を当てない方の手の明るさや暖かさを比較して，光を手や物に当てると，明るくなり暖かくなることを表現している。 | ・光が当たったところの明るさや暖かさの違いが体感できないときは，鏡の枚数を増やして，明るさや暖かさの違いが捉えられるように支援する。 |
| 知②数枚の鏡で反射させた光を物に当てると，鏡１枚のときよりも物の明るさや暖かさが変わることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・何枚もの鏡で光を重ねると，光が当たったところは，１枚の鏡のときよりも明るく暖かくなることを理解している。 | ・鏡１枚のときの明るさや暖かさと，光を重ねたときの明るさや暖かさを，同時に観察し，比較させるように支援する。 |
| 第３次 | ⑥ | 実虫めがねで日光を集め，集めた日光の明るさやあたたかさを調べよう。 | 知③虫めがねを正しく扱いながら調べ，わかりやすく記録しているかを評価する。  【行動観察・記録分析】 | ・虫めがねを正しく扱いながら集めた日光の明るさや暖かさを調べ，得られた結果を絵や言葉でわかりやすく記録している。 | ・集めた光が円くなるように虫めがねの角度や紙との距離を変えて，光の円を大きくしたり小さくしたりするように支援する。 |
| 知➀光を一点に集めたところは，明るく温度が高くなることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・虫めがねで光が集められたところは，明るくなり紙が焦げるほど温度が高くなることを理解している。 | ・明るさの違いを比較し，集めた光で紙が焦げたことから，紙が焦げるほど温度が高くなることを捉えられるように支援する。 |

１１　豆電球に明かりをつけよう

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 乾電池と豆電球などのつなぎ方と乾電池につないだ物の様子に着目して，電気を通すときと通さないときのつなぎ方を比較しながら，電気の回路について調べる活動を通して，それらについての理解を図り，実験などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があることを理解している。  ②電気を通す物と通さない物があることを理解している。  ③電気の回路について，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀電気の回路について，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②電気の回路について，実験などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀電気の回路についての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②電気の回路について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 第１次 | ➀ | 実豆電球に明かりがつくときとつかないときのつなぎ方を調べよう。 | 態➀豆電球に明かりがつくつなぎ方を進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・乾電池や豆電球に興味をもち，導線の先を乾電池のいろいろなところにつなぎ，豆電球に明かりのつくつなぎ方を進んで調べようとしている。 | ・乾電池と豆電球を利用した懐中電灯を見て，その中には何が入っているか観察し，乾電池と豆電球の明かりのつき方に関心がもてるように支援する。 |
| 知③乾電池や豆電球を正しく扱いながら調べ，結果をわかりやすく記録しているかを評価する。  【行動観察・記録分析】 | ・乾電池や豆電球を正しく扱いながらつなぎ方を調べ，得られた結果を絵や言葉でわかりやすく記録している。 | ・乾電池と豆電球をかいた図に導線を記入させ，電気の通り道に着目するように支援する。 |
| ②  ③ | 実回路のと中に，べつのどう線やスイッチをつないで，明かりがつくときの回路を調べよう。 | 知➀明かりがつくときは，回路が１つの輪のようになっていることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・回路が１つの輪のようになっているときは明かりがつき，回路の一部が切れているときは明かりがつかないことを理解している。 | ・回路を指でたどらせ，明かりがつくときは１つの輪になっていることに気付くことができるように支援する。 |
| 第２次 | ④  ⑤ | 実回路のと中にいろいろなものをつないで，明かりがつくものを調べよう。 | 知②電気を通す物と通さない物があることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・回路の一部にいろいろな物を入れて，明かりがつく物は電気を通し，つかない物は電気を通さないことを理解している。 | ・回路に別の物を入れないで，豆電球の明かりがつくことを確かめてから調べたい物を入れ，明かりがつくかどうか調べるように支援する。 |
| 思②電気を通す物と通さない物を調べ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・電気を通す物と通さない物の違いを比較して，物の素材によって電気を通す物と通さない物があることを，表現している。 | ・明かりがつく物とつかない物を分けて，電気を通す物は何でできているかに着目するように支援する。 |
| 第３次 | ⑥  ⑦ | 作かん電池と豆電球を使って，いろいろなものを作ってみよう | 態②乾電池と豆電球を使ったおもちゃを進んで作ろうとしているかを評価する。  【行動観察・作品分析】 | ・自分の作りたいものを考え，材料を準備し乾電池と豆電球を使ったおもちゃを進んで作ろうとしている。 | ・乾電池と豆電球を使った作品例をいくつか紹介し，作品のイメージがもてるように支援する。 |

１２　音のせいしつ

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 音を出したときの震え方に着目して，音の大きさを変えたときの現象の違いを比較しながら，音の性質について調べる活動を通して，それらについての理解を図り，観察，実験などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀物から音が出たり伝わったりするとき，物は震えていること，また，音の大きさが変わるとき物の震え方が変わることを理解している。  ②音の性質について，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀音の性質について，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②音の性質について，実験などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀音の性質についての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②音の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 導入 | ➀ | ？いろいろなものを使って音を出してみよう。 | 態➀音が出ているときの物の様子を進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・打楽器をたたいたり，身近にある物を工夫して音を出したりして，音が出ているときの物の様子を進んで調べようとしている。 | ・打楽器で音を出した経験から，自分たちでも身近な材料を使って音の出る物を作ったり，音を出したりして，音の出方や伝わり方に興味・関心をもたせるように支援する。 |
| 思➀楽器などで音を出し，音の性質について問題を見いだし，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・打楽器や輪ゴムギター，石のカスタネットなどで音を出して，物から音が出ているときの様子について問題を見いだし，表現している。 | ・音を出している部分に着目させたり，音が出ている部分を触わらせたりして，問題を見いだすことができるように支援する。 |
| 第１次 | ②  ③ | 実１楽きで音を出して，ふるえているか調べよう。  実２大きな音を出したときのふるえを調べよう。 | 思②強弱をつけて音を出したときの震えを調べ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・打楽器で小さな音を出したときと，大きな音を出したときの皮の震えを比較して，小さな音が出ているときは震え方が小さく，大きな音が出ているときは震え方が大きくなることを，表現している。 | ・ふた付きの透明な容器にビーズを入れた物を用意し，太鼓の皮の上に置き，弱くたたいたときと強くたたいたときのビーズの動きの違いに着目して調べ，音の大きさと震えの大きさの関係を捉えることができるように支援する。 |
| 知➀物が音を出しているときは，震えていることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・音が出ている大太鼓やグロッケン，輪ゴムギターを触り，音が出ている物は震えていることを説明できる。 | ・輪ゴムギターをはじいた後にそっと指先で触れるなどして，震えの様子を確かめることができるように支援する。 |
| 第２次 | ④  ⑤ | ？糸電話を作って，話をしてみよう。  作糸電話 | 思➀作った糸電話で音を伝え合い，音の伝わり方について問題を見いだし，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・身近な材料で作った糸電話で音を伝え合い，音の伝わり方について問題を見いだし，表現している。 | ・音を伝えるおもちゃとして，糸電話を作り，どんなときに音がよく伝わるか糸の張り方に着目させ，音の伝わり方について問題を見いだすことができるように支援する。 |
| ⑥ | 実糸電話が音をつたえているときの糸のようすを調べよう。 | 知➀音は糸を震わせて伝わることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・糸電話で音を伝えるとき，音は糸を震わせて伝わることを理解している。 | ・音を伝えている糸に，そっと指先で触れて，震えが体験できるように支援する。 |

１３　じしゃくのせいしつ

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 磁石を身の回りの物に近付けたときの様子に着目して，それらを比較しながら，磁石の性質について調べる活動を通して，それらについての理解を図り，観察，実験などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があること，また，磁石に近付けると磁石になる物があることを理解している。  ②磁石の異極は引き合い，同極は退け合うことを理解している。  ③磁石の性質について，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀磁石の性質について，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②磁石の性質について，実験などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀磁石の性質についての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②磁石の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 導入 | ➀  ② | ？いろいろなものにじしゃくを近づけてみよう。 | 態➀磁石の性質を進んで調べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・いろいろな物に磁石を近付けたときの様子に興味をもち，磁石の性質を進んで調べようとしている。 | ・磁石で遊んだ経験や身の回りで磁石が使われている物を発表させ，磁石についての興味・関心を高めるように支援する。 |
| 思➀いろいろな物に磁石を近付け，磁石の性質について問題を見いだし，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・身の回りのいろいろな物に磁石を近付け，磁石に付く物，付かない物や磁石の性質について問題を見いだし，表現している。 | ・机や黒板，鉄棒などからゆっくり磁石を離すときの手ごたえを比べ，引っぱられる感じの違いを体感することができるように支援する。 |
| 第１次 | ③ | 実身近にあるものをじしゃくに近づけて，じしゃくにつくものを調べよう。 | 知③磁石などを正しく扱いながら調べ，わかりやすく記録しているかを評価する。  【行動観察・記録分析】 | ・磁石などを正しく扱いながら磁石に付く物，付かない物を調べ，得られた結果を絵や言葉でわかりやすく記録している。 | ・磁石に付いたときと付かないときの手ごたえを確認させ，結果を正しく捉えることができるように支援する。 |
| 思②磁石に付く物と付かない物を調べ，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・磁石に付く物，付かない物を比較して，素材によって磁石に付く物と付かない物があることを表現している。 | ・磁石に付く物を調べ，付く物が何でできているかに着目することができるように支援する。 |
| 知➀磁石は鉄でできている物が付くことを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・鉄は磁石に付き，プラスチックや木，紙などは磁石に付かないことを理解している。 | ・磁石に付いた物と付かなかった物を分類した表から，鉄は磁石に付いて，鉄以外の物は磁石に付かなかったことを理解できるように支援する。 |
| 第２次 | ④ | 実じしゃくとクリップの間をはなしても，じしゃくはクリップを引きつけるか調べよう。 | 知➀磁石と鉄の間が離れていても，磁石は鉄を引き付けることを理解しているかを評価する。  　　　【発言分析・記述分析】 | ・磁石とクリップの距離を離していくと，やがてクリップが落ちてしまうことから，引き付ける力は磁石と鉄の距離によって変わることを説明できる。 | ・クリップを磁石から徐々に遠ざけると，手ごたえが弱くなり，やがてクリップが落ちてしまう現象を体験できるように支援する。 |
| ⑤ | 実じしゃくが鉄をよく引きつけるところを調べよう。 | 知➀磁石の両端に鉄がよく付くことを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・磁石をクリップに近付けたときのクリップの付き方から，磁石の両側にたくさん付くことを説明できる。 | ・長めの棒磁石を使い，クリップの付く場所，付かない場所が確認できるように支援する。 |
| ⑥ | 実ぼうじしゃくをひもでつるしたり，水にうかべたりしておくと，北と南を指して止まるか調べよう。 | 知➀磁石も方位磁針のように，北と南を指して止まることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・磁石を自由に動くようにすると，方位磁針のように，北と南を指して止まり，Ｎ極とＳ極があることを理解している。 | ・水に浮かべたり，ひもでつるしたりした磁石をいくつか観察させ，どの磁石も同じ方位を指して止まる共通性を実感することができるように支援する。 |
| ⑦ | 実動くようにしたじしゃくに，ほかのじしゃくのきょくを近づけるとどうなるか調べよう。 | 知②磁石は同極は退け合い，異極は引き合うことを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・磁石は，Ｎ極とＮ極，Ｓ極とＳ極は退け合い，Ｎ極とＳ極は引き合うことを理解している。 | ・２つの磁石を手に持ち，引き合うことや退け合うことを体感できるように支援する。 |
| 第３次 | ⑧ | 実じしゃくについていた鉄釘は，鉄のこなを引きつけたり，きょくがあったりするか調べよう。 | 知➀磁石に近付けると磁石になる物があることを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・磁石に付いていた鉄釘が，磁石から離しても鉄の粉を引き付け，方位磁針の針の動きが変わることから，磁石に付いていた鉄釘は磁石になることを説明できる。 | ・磁化された鉄釘と磁化されていない鉄釘を鉄の粉に近付け，付き方の違いを比べさせ，磁石に付いていた鉄釘が磁石になったことを確認することができるように支援する。 |
| 第４次 | ⑨  ⑩  ⑪ | 作じしゃくのせいしつをりようして，おもちゃを作ってみよう | 態②磁石の性質を利用したおもちゃを進んで作ろうとしているかを評価する。  【行動観察・作品分析】 | ・磁石の性質を利用したおもちゃを考え，材料を準備し，進んで作ろうとしている。 | ・作品例を見て，磁石の性質を利用している点を見つけさせたり，必要な材料を準備したりできるように支援する。 |

１４　ものの重さをくらべよう

（１）単元の観点別評価規準

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元の目標 | | | 単　　　元　　　の　　　観　　　点　　　別　　　評　　　価　　　規　　　準 | | |
| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
| 物の形や体積に着目して，重さを比較しながら，物の性質を調べる活動を通して，それらについての理解を図り，実験などに関する技能を身に付けるとともに，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。 | | | ➀物は，形が変わっても重さは変わらないことを理解している。  ②物は，体積が同じでも重さは違うことがあることを理解している。  ③物の性質について，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。 | ➀物の性質について，差異点や共通点を基に，問題を見いだし，表現するなどして問題解決している。  ②物の性質について，実験などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ➀物の性質についての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしている。  ②物の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |
| （２）各時間の評価計画 | | | | | |
| 段階 | 時間 | 観察・実験・調査等 | 重点とする観点の評価規準と評価方法 | おおむね満足できる状況（B）の例 | 努力を要する状況（C）への手立て |
| 導入 | ➀  ② | ？いろいろなものの重さをくらべてみよう。 | 知③てんびんを正しく扱いながら調べ，わかりやすく記録しているかを評価する。  【行動観察・記録分析】 | ・てんびんを正しく扱いながら物の重さを比べ，得られた結果を絵や言葉でわかりやすく記録している。 | ・てんびんを使うと，手ごたえではわからなかった重さの違いも比べられることを説明し，手ごたえで比べた重さの違いをてんびんで使って確かめるように支援する。 |
| 態➀物の重さを進んで比べようとしているかを評価する。  【行動観察・発言分析】 | ・身の回りにある物の形や体積と重さについて関心をもち，いろいろな物の重さを進んで比べようとしている。 | ・いろいろな物の重さを，手ごたえやてんびんで比べる活動を通して，身の回りには様々な重さの物があることに関心をもつことができるように支援する。 |
| 思➀いろいろな物の重さを比べ，物の重さについて問題を見いだし，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・身の回りにある物の重さを，両手で比べたり，てんびんで比べたりして，物の形や体積と重さについて問題を見いだし，表現している。 | ・日常生活の中で使われている物や，形や大きさが似ている物，丸めたりできる物や粉状の物などを用意し，問題を見いだすことができるように支援する。 |
| 第１次 | ③  ④ | 実１ねん土は，形がかわると重さはかわるか調べよう。  実２アルミニウムはくは，形がかわると重さはかわるか調べよう。  実３ねん土やアルミニウムはくは，細かくちぎると重さはかわるか調べよう。 | 知③電子てんびんを正しく扱いながら調べ，わかりやすく記録しているかを評価する。  【行動観察・記録分析】 | ・電子てんびんを正しく扱いながら物の重さを測り，得られた結果を絵や言葉でわかりやすく記録している。 | ・電子てんびんの使用方法を確認させ，正しい手順で測定できるように支援する。 |
| 思②物を変形させる前と後の重さについて，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・粘土やアルミニウム箔を変形させる前と後の重さを比較し，物は変形させても重さは変わらないことを，表現している。 | ・変形させる前後の粘土やアルミニウム箔の重さを，電子てんびんで測定して比較させ，重さは変わらないことに気付くように支援する。 |
| 知➀物は形が変わっても，重さは変わらないことを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・粘土やアルミニウム箔を丸めたり平らにしたりちぎったりして変形させても，重さは変わらないことを理解している。 | ・手に粘土を付けてしまい重さが変わってしまうときは，粘土を袋に入れた状態で変形させる方法で調べるように支援する。 |
| 第２次 | ⑤  ⑥ | 実１同じ体積にしたものの重さを調べよう。  実２同じ体積の鉄とプラスチックの重さを調べよう。 | 思②同じ体積の物の重さについて，得られた結果を基に考察し，表現しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・同じ体積の砂と食塩や，鉄とプラスチックの重さを比較して，体積が同じでも物によって重さは違うことを，表現している。 | ・同じ体積の物の重さを比べた結果について，体感したことや電子てんびんの数値を表にまとめて考察するように支援する。 |
| 知②体積が同じでも，物によって重さは違うことを理解しているかを評価する。  【発言分析・記述分析】 | ・同じ体積の砂と食塩や同じ体積の鉄とプラスチックを比べ，同じ体積でも，物によって重さは違うことを説明できる。 | ・手ごたえで重さの違いがはっきりわかる同じ体積の物を用意して，物によって重さは違うことを捉えることができるように支援する。 |